

5月4日、奈良市鴻ノ池陸上競技場（ロートフィールド奈良）リニューアルの落成式が催され、奈良市長、市議会議長など関係者が参列しテープカットが行われた。私も県陸上競技協会の代表として招かれ、祝辞を述べる機会を頂いた。鴻ノ池陸上競技場は、私にとってホームグラウンドであり、今ある健康体力の源といっても過言ではない。そもそも鴻ノ池陸上競技場が、この地に建設されるきっかけとなったのは70年前にさかのぼる。

よみがえる陸上競技場

建設促進へ尽力した先人

拵がり、市内の有志による建設促進期成会が発足して活動が進められた（同年9月2日付・大和タイムス＝現・奈良新聞＝掲載）。その中心になったのが堀紘一郎さんである。堀さんを知る人がいなく距離3種目に優勝した堀さんの活躍があった。一躍全国に「堀紘」の名前が広がり、翌年の第10回大会でも、1500円で日本新記録を樹立して健闘、総合2連覇に導いた。個人賞では短距離、跳躍を懸ける情熱は衰えず、県スポーツ振興審議会、県体育協会の要職に就いて、本県体育振興に尽力された。奈良市の総合運動公園の建設作業は、市の失業対策事業、自衛隊の地方支援などで賄わ

なった今、功績を綴って現状の鴻ノ池陸上競技場に思いをはせたい。1923（大正12）年に開催された、第9回全国中等学校陸上競技大会（駒沢）において、奈良県立郡山中等学校が初の総合優勝を成し遂げた。そこに長得意とした南部忠平（北海中、後のロサンゼルスオリンピック三段跳金メタリスト）に敗れたが、健闘がたたえられて最優秀賞を受賞。その後、満鉄に入社したが成績は振るわず、戦後は奈良市内で会社を設立。事業を営みながらもスポーツに



陸上競技場の「第一種公認」を継続するためのリニューアル工事が完成し、テープカットして祝う仲川元庸奈良市長（中央）と筆者（左から2人目）ら＝5月4日、奈良市法蓮佐保山4のロートフィールド奈良

た。長い歳月を経て鴻ノ池に広場が整地され300mのトラックができたが、陸上競技場には程遠い運動広場であ

った。当時奈良市体育協会長であった堀さんは、この広場で市民体育大会総合開会式の開催を主張、市長や議会関係者へ競技場早期設置のアピールの機会とされた等々。鴻ノ池陸上競技場の建設実現に懸けられた堀さんの情熱は並々ならぬものがあった。1984（昭59）年第39回国民体育大会（わかさ国体）が、鴻ノ池陸上競技場で盛大に開催されたが、1978年にすでに他界（享年71）、その華やかな光景を目にされることはなかった。私は堀紘一郎という偉大な先輩に出会ったことで、人生90年に学んだことは計り知れないものがある。今も心によみがえる。

載 第2、4金曜日掲